

宮川の風 第72号

平成31年1月18日（金）発行
宮川小学校校長室からのたより

6時間41分3秒の戦いでした。第38回指宿菜の花マラソンの天候は「くもり」。気温12.5度、南東の風0.2mの絶好のマラソン日和でした。もちろん素人の私には、マラソン日和だからといって調子よく走れるわけではないのですが、数年前に苦しめられた冷たい風雨の再来にならなかったことは、非常にありがたいことでした。自分にとっては9回目のチャレンジとなった今大会でしたが、これまで同様に家族3人で完走できたことだけで十分満足でした。

今回は、宮川小の職員やおやじの会・OBの方々の参加もあり、仲間意識を感じながら走ることができました。そしてさらに、職員数人が応援に駆け付けてくれ、寒い中で声をかけてくれました。応援に来れなかった職員も、前日の帰り際に「頑張ってください」と声をかけてくれ、大きな励みをもたらしたのでした。仲間全員が無事に完走できたことも、これまでになかった喜びとなりました。

さて、いつも感じる菜の花マラソンの大きな魅力である「おもてなし」。今回も胸に深く染み込んできました。あれだけ多くの方々が沿道に出て、声援を送ってくれる大会があるのだろうか。飴や梅干し、金柑、黒糖、バナナ、みかん、鰹のハラガワなどなど、手作りを含めたおもてなしに感謝でいっぱいでした。寒い中、何時間も声援を送り続けてくださる指宿市民の皆さんに、心から感謝です。

裏面の記事を読むと、相手を受け入れ、相手の立場に立った言動の大切さを教えられます。ただ単に、事務的な効率を優先するのではなく、心のこもった対応が、人の心に「感謝」の気持ちを育てるのです。とかく、自分中心になりがちな風潮の昨今ですが、今一度、相手への気遣いを考えてみようと思いました。

第49回鹿児島市仲よし作品展

すでにプリントでお知らせしてありますが、市内の特別支援学級に在籍する小・中学生の仲よし作品展が22日（火）まで、山形屋（2-3号館3階連絡通路）と鹿児島市中央公民館で行われています。本校の子どもたちの作品も両会場に展示されています。お買い物ついででもお立ち寄りくださり、子どもたちの作品をご覧くださいませようお願いします。



ある日のできごとから

宮川小学校のいつもの風景ですが、今週も正門にはあいさつ運動に取り組む子どもたちの姿がありました。寒風の中、あいさつ運動のたすきを肩から下げて、登校してくる友だちに「おはようございます」と元気よく声をかけていました。あいさつ運動に取り組んでくださる保護者の皆さんの姿もあり、より一層にぎやかな朝の風景になりました。

そのあいさつ隊の間を、ほうきやちり取り、熊手などを持ってブルーベリーロードに颯爽と出て行く子どもたちがいます。6年生です。卒業がどんどん近くなってくる6年生が、宮川小に残せるものは何だろうと思いながら取り組んでいる活動です。自分たちの姿がこれからの宮川小の姿になるという自覚と責任を感じながら、頑張っている姿に感動します。

同じくそれを引き継ぐかのように、5年生が通用門側のブルーベリーロードを掃除しています。次は自分たちが宮川小のお手本にならないといけないという思いが、伝わってきます。もちろん担任の指導があつてのことですが、行動することで何かを感じ、何かを発見していくのだと思います。

朝の時間の落ち葉集めは冷たいだろうと、学校から作業用の軍手を配付しました。真新しい軍手をつけて、これから卒業式、修了式まで頑張ってくれる子どもたちです。

（文責；鹿児島市立宮川小学校長 松永幸二）